

ワークショップ調査報告書

【目 次】

1. ワークショップ概要	2
1.1. 開催目的と基本方針	2
1.2. 開催概要	3
2. ワークショップ記録	4
2.1. 職員ワークショップ	4
2.2. 市民ワークショップ	21

1. ワークショップ概要

1.1. 開催目的と基本方針

「第6次津久見市総合計画」及び「第3期津久見市総合戦略」の策定において、住民の関心を高めるとともに、多様な主体の参画により広く意見を取り入れ、今後の施策展開を共に考えるため、住民を対象としたワークショップを実施する。

さらに、職員による政策形成を推進し、これまで培ってきた経験や意見を次期総合計画及び総合戦略へ反映させるため、職員向けのワークショップも併せて実施する。

住民や職員の意見を次期総合計画及び総合戦略へ反映させるためには、EBPM（Evidence based policy making／証拠に基づく政策立案）の考え方にに基づき、感覚ではなく、データを活用して話し合うことが重要である。これを実現するため、ワークショップの手法は、デジタル庁が令和6年10月より提供する「地域幸福度（Well-Being）指標を活用したワークショップ（標準ワークショップ）」を採用し、市民の Well-Being 向上を目的としたまちづくりの重要性への理解や、地域幸福度（Well-Being）指標を活用した政策デザインの意義と概要への理解、さらなる取り組みに向けての意識喚起・動機付けを行うものとする。

また、Well-Being 標準ワークショップの実施の狙いや実施方法等について、職員が十分に理解したうえで、住民を対象としたワークショップを企画・実施することが成功のカギとなるため、職員向けワークショップを実施した後、住民向けワークショップを実施するものとする。

ワークショップの実施に当たっては、デジタルツールの活用など市民が参画しやすい手法を検討する。

地域幸福度（Well-Being）指標を活用したグループワークの流れ

- ①地域幸福度指標ダッシュボードを活用してまちの特徴を俯瞰する
- ②主観×客観分析を通じ、市民のウェルビーイングにとって重要な因子を見つける
- ③市民の幸福度・生活満足度と相関性の高い因子を特定する
- ④市民のウェルビーイングを高めるための重点領域を決める
- ⑤将来のウェルビーイングが向上した都市像を言語化する
- ⑥チーム発表と講評



（出典：ワークショップ実施要領（デジタル庁） <https://well-being.digital.go.jp/guide/>）

1.2. 開催概要

	研修・ ワークショップ	開催日時	主な内容
1	職員ワークショップ	令和7年5月30日（金） 10:00～12:00／ 13:00～16:00	Well-Beingに関する講義 地域幸福度(Well-Being)指標活用ワ ークショップ（政策デザイン編）
2	市民ワークショップ	令和7年6月8日（日） 13:00～17:00	Well-Beingに関する講義 地域幸福度(Well-Being)指標活用ワ ークショップ（政策デザイン編）

2. ワークショップ記録

2.1. 職員ワークショップ

(1) 開催概要

開催日時	令和7年5月30日（金） 10:00～12:00／13:00～16:00
実施場所	津久見市役所大会議室
実施手法	地域幸福度（Well-Being）指標を活用したワークショップ
参加者	庁内公募（16名程度）（4名×4グループ）
役割	長大：ファシリテーター1名・サブファシリテーター3名程度
実施目的	ウェルビーイングの定義、まちづくりにおけるウェルビーイングの重要性等について理解を深める 地域幸福度指標の構成・概要を理解するとともに、指標サイトの使い方を習得する 地域幸福度指標（主観・客観）をもとにして、市の現状について理解を深める 地域幸福度指標を活用した政策デザイン手法（重点領域の選定、まちづくりビジョンの言語化など）を体験する
達成すべきゴール	市民のウェルビーイング向上を目的としたまちづくりの重要性への理解 地域幸福度（Well-Being）指標を活用した政策デザインの意義と概要への理解、さらなる取り組みに向けての意識喚起・動機付け

(2) プログラム

WB ファシリテーター養成講座ワークショップ方法資料（一般社団法人スマートシティ・インスティテュート 2024 年 7 月）を参照し作成した。

No.	内容	所要時間	時刻	担当
1	開会（進行の説明・WS 実施の背景説明など）	5 分	10:30-10:35	津久見市 経営政策課
2	午前の部（座学） 総合計画・総合戦略について Well-Being に関する講義	85 分	10:35-12:00	長大
—	昼休憩	60 分	12:00-13:00	—
3	午後の部 市長あいさつ	5 分	13:00-13:05	
4	ダッシュボード操作演習	15 分	13:05-13:20	長大
4	午後の部（ワークショップ）（計 185 分） ワークショップの目的とプロセスの説明	5 分	13:20-13:25	長大
5	アイスブレイク	15 分	13:25-13:40	長大
6	地域幸福度指標ダッシュボードを活用してまち の特徴を俯瞰する ワークショップの対象都市を津久見市・大分 市・佐伯市（各 2 グループ）として、比較が行 えるようにする （臼杵市は全国調査・個別調査の結果なし）	25 分	13:40-14:05	長大
7	主観×客観分析を通じ、市民のウェルビーイン グにとって重要な因子を見つける	20 分	14:05-14:25	長大
8	市民の幸福度・生活満足度と相関性の高い因子 を特定する	10 分	14:25-14:35	長大
—	休憩 他のグループの作業結果も見ていただく	5 分	14:35-14:40	—
9	市民のウェルビーイングを高めるための重点領 域を決める	30 分	14:40-15:10	長大
10	将来のウェルビーイングが向上した都市像を言 語化する	30 分	15:10-15:40	長大
—	休憩 他のグループの作業結果も見ていただく	10 分	15:40-15:50	—
11	チーム発表・講評	35 分	15:50-16:25	長大
12	閉会・事務連絡など	5 分	16:25-16:30	津久見市 経営政策課

(3) 実施準備

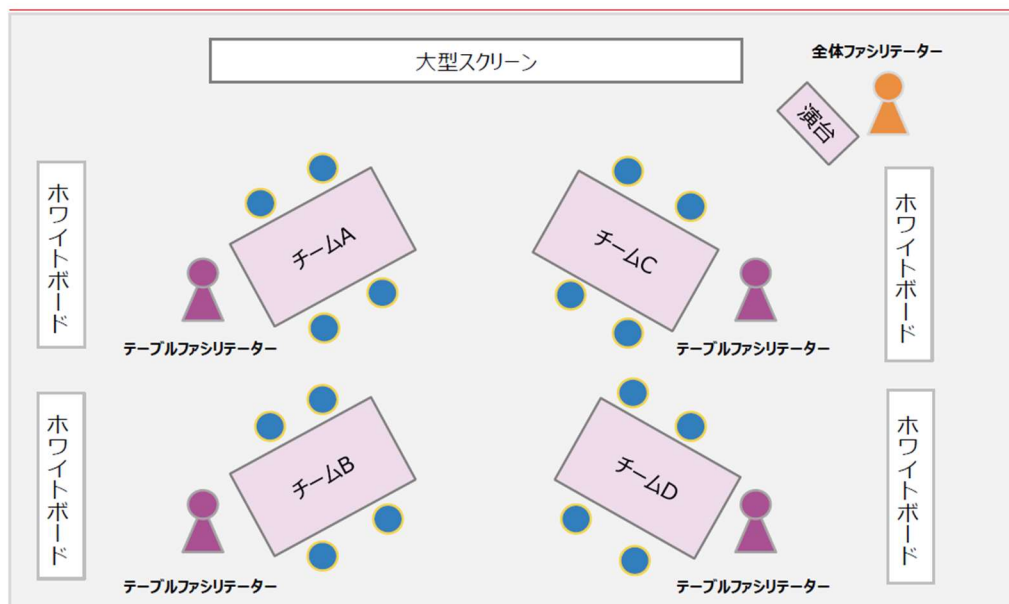
「ワークショップ実施要領（デジタル庁 2024 年 10 月 15 日）」を参照し、実施準備を行った。
(<https://well-being.digital.go.jp/guide/>)

項目	内容	担当
会場の環境	講師用機材（資料投影用スクリーン、マイク等） PC（原則、参加者に持参してもらう。インターネット接続ができるもの。最低グループに 1 台） インターネット接続（できれば Wi-Fi 環境を確保） 電源コンセント（PC、モニター等接続用） モニター（グループに 1 台）	津久見市 参加者 津久見市 津久見市 津久見市
備品 (1 グループごと)	模造紙 2 枚（特徴把握用、SWOT 分析用） →模造紙（PPT データ） ポストイット 4 色（イエロー・ピンク・グリーン・ブルー）以上 4 色以上のポストイットの準備が難しい場合は、オレンジ、紫、グリーン、ブルーのマジックペン（下記とは別）で代用可 マジックペン 3 色（黒・赤・青）以上 ホワイトボード 1 台（壁に貼る等で代替可能） マグネットまたはテープ（模造紙をホワイトボードに貼るため）	津久見市 津久見市 津久見市 津久見市 津久見市
資料	地域幸福度指標に関する講義資料、ワークショップの講師用資料、受講者用のワークシートは、アンケート調査結果がダッシュボードに反映された後、SCI-Japan にてワークショップ用資料のカスタマイズを行い、ファシリテーターに提供される 【参考】 ★Well-Being 講義資料（2 時間）v4（ノート付）_職員向け.pptx 202505_大分県津久見市_WB ワークショップ_講師資料（政策デザイン編）_職員向け.pptx 202505_大分県津久見市_WB ワークショップ_ワークシート（政策デザイン編）_職員向け.pptx 地域幸福度（Well-Being）指標利活用ガイドブック KPI 測定主旨・出典一覧.pdf	SCI-Japan 長大

■ 会場レイアウト

座学・ワークショップとも同じ配置とする（職員・市民共通）。声が聞き取りづらくなるため、各チームのテーブルが近すぎないようにする。

会場イメージ：5～6チーム（各4～5名）程度、全体で30名以下が望ましいです



（注）②地元の関係者向け、③地域の住民・学生向けのワークショップの場合は、自治体職員がテーブルファシリテーターを担当することを推奨しています

■ 模造紙イメージ

模造紙／1枚目 ○○市の特徴・個性の把握

【特徴】	【主観因子】 トップ 5
	ボトム 5

模造紙／ 2 枚目 ○○市のSWOT（強み・弱み）分析と将来像

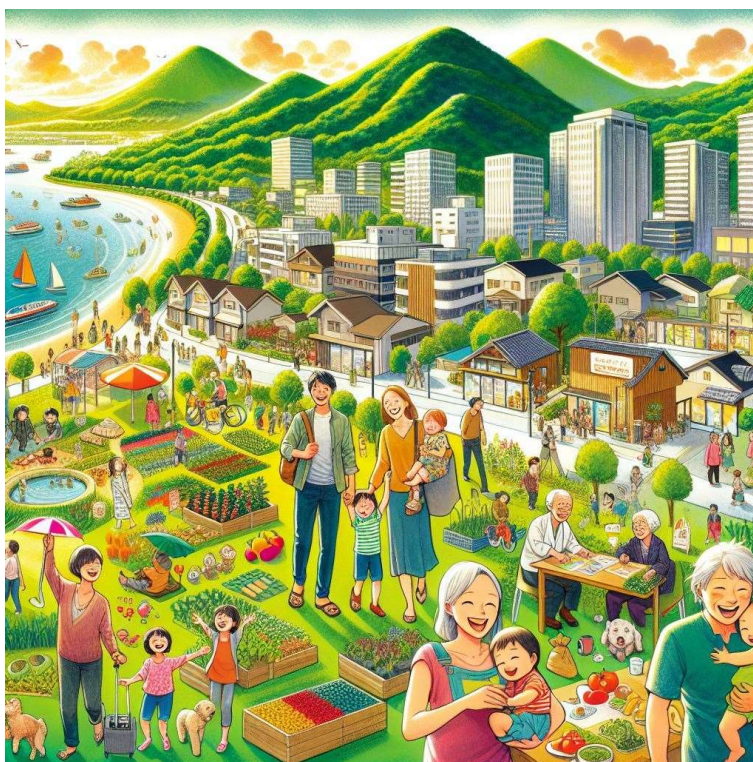
○○市の将来像	
	客 観
主 観	(主観50以上、客観50未満)
	(主観・客観ともに50以上)
	(主観・客観ともに50未満)
	(主観50未満、客観50以上)

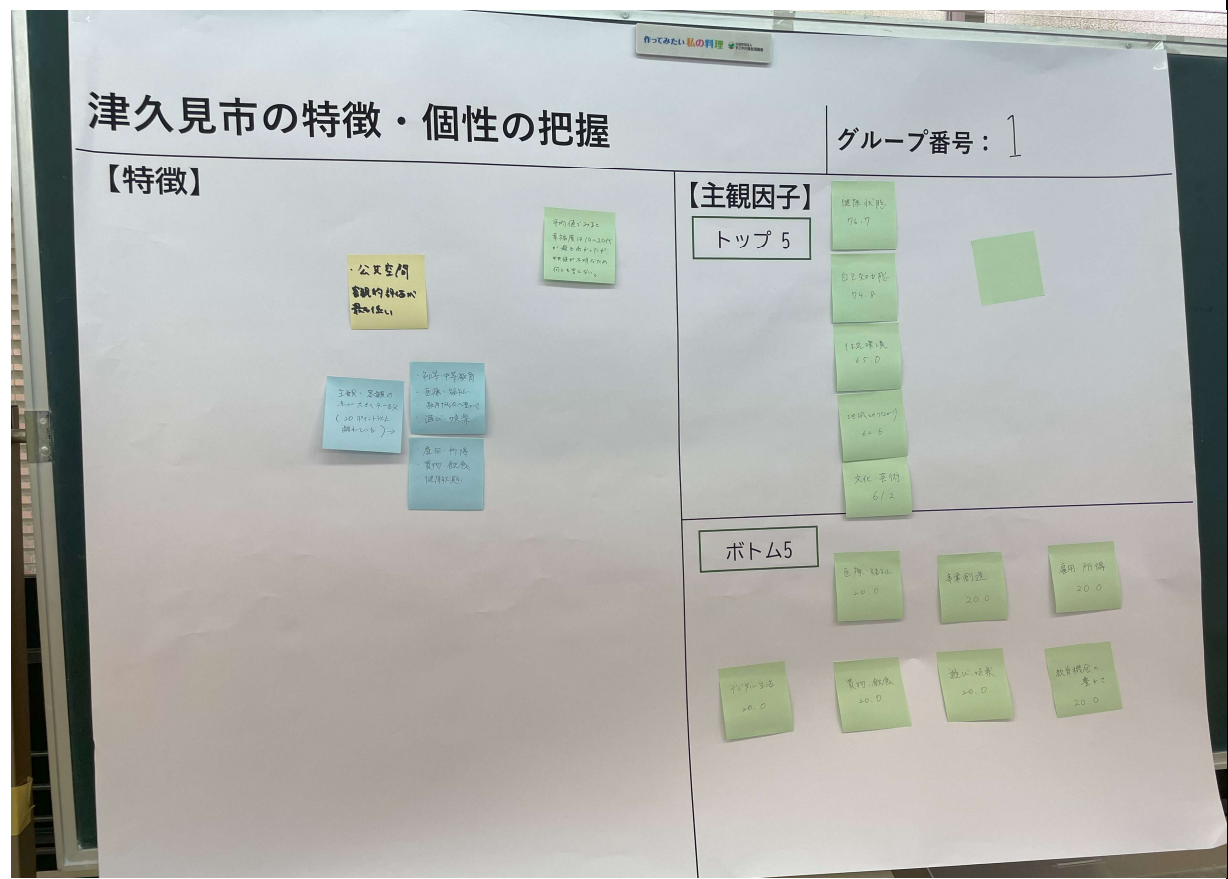
(4) 結果

ワークショップにおいては、対象とする都市を津久見市（1 班・2 班）、大分市（3 班）、佐伯市（4 班）として設定し、他都市との比較が行えるようにした。

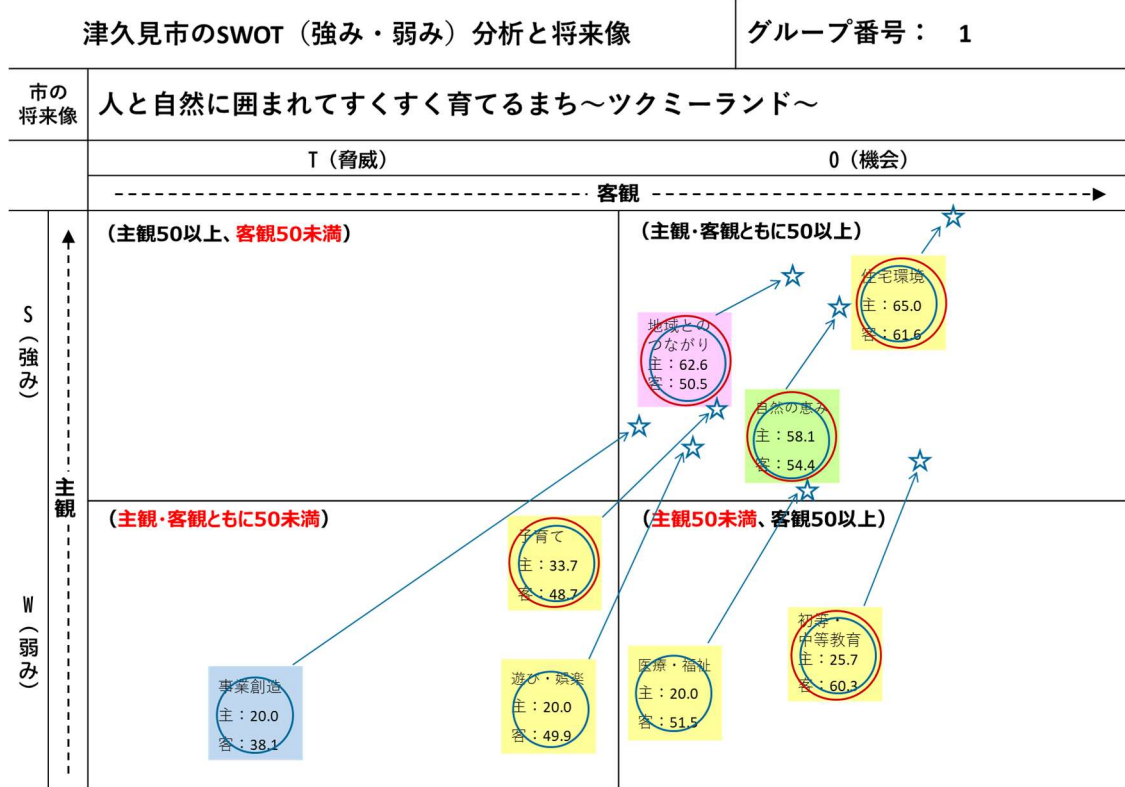
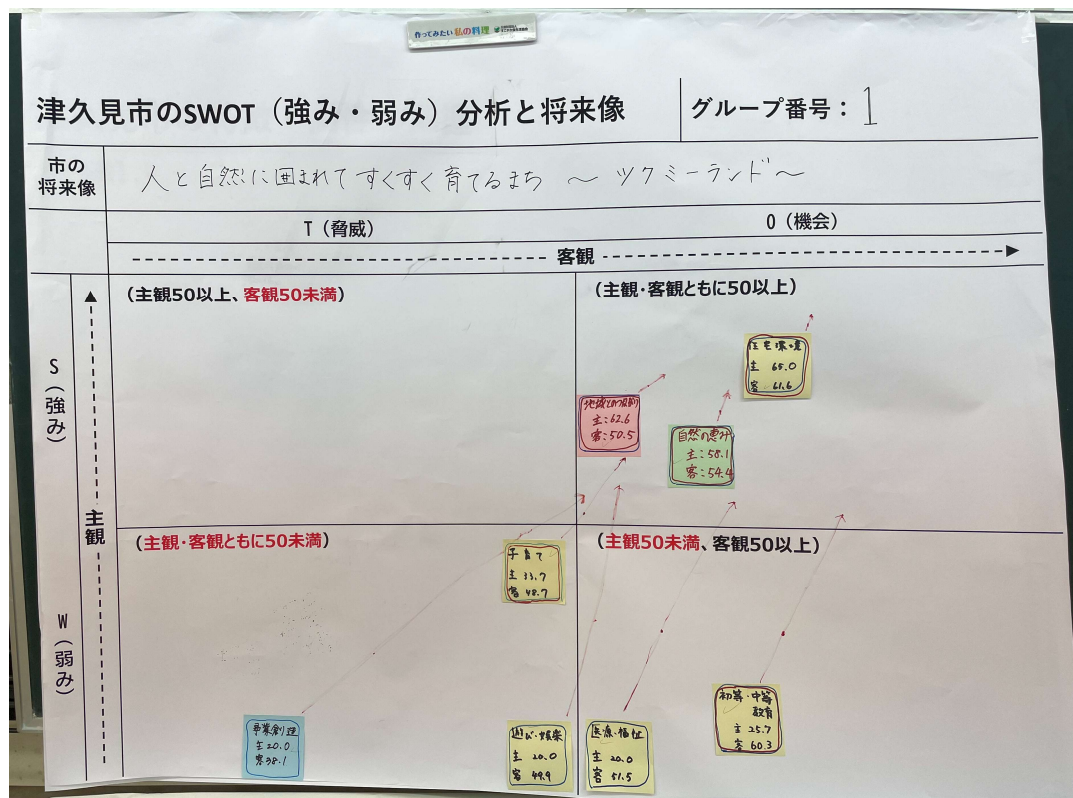
a) 1 班

ワークショップ名：	職員ワークショップ		
日付	令和 7 年 5 月 30 日（金）	場所	津久見市役所 会議室
班名	1	担当自治体名	津久見市
発表内容			
① 主観×客観分析と相関性分析を通じ見つけたウェルビーイングの重要な因子 ・ 主観・客観共に 50 未満の項目が最も多かった。 ・ 主観・客観共に 50 以上である「自然の恵み」、「住宅環境」、「地域とのつながり」などを手掛かりに各項目を連携させることで、全体的な水準の向上を図りたい。			
② チームで選んだ 8 つの政策領域と選択の理由と方針 以下 8 つを選択： <u>「地域とのつながり」「住宅環境」「自然の恵み」「子育て」「初等・中等教育」「医療・福祉」「遊び・娯楽」「事業創造」</u> ・ 子育て世代により関心を持ってもらえることを念頭に置いた ・ 人と自然が魅力であり、これらに囲まれた環境が重要 ・ 「子育て」の項目は短期的な改善や向上が望めそうな状態で、中心テーマとして考えやすい ・ 津久見独自の取組の市民認知が進んでいないものもある			
③ 将来の都市像：キャッチフレーズ及びイメージ図 ・ キャッチフレーズ：「人と自然に囲まれてすくすく育てるまち～ツクミーランド～」 ・ イメージ図			





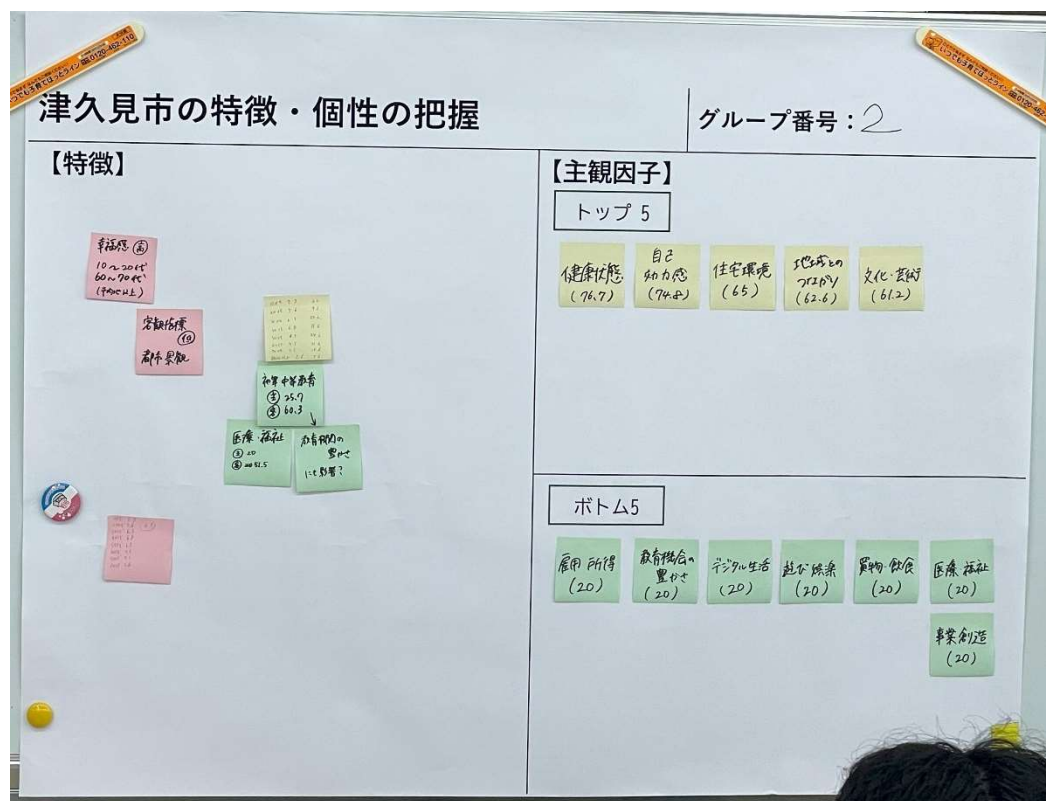
- ・ 公共空間 客観的評価が最も低い
- ・ 平均値でみると幸福度は 10～20 代が最も高かったが中央値が不明なため何とも言えない。
- ・ 主観・客観の点が大きく不一致
(20 ポイント以上離れている) →
- ・ 初等・中等教育
- ・ 医療・福祉
- ・ 教育機会の豊かさ
- ・ 遊び・娯楽
- ・ 雇用・所得
- ・ 買物・飲食
- ・ 健康状態



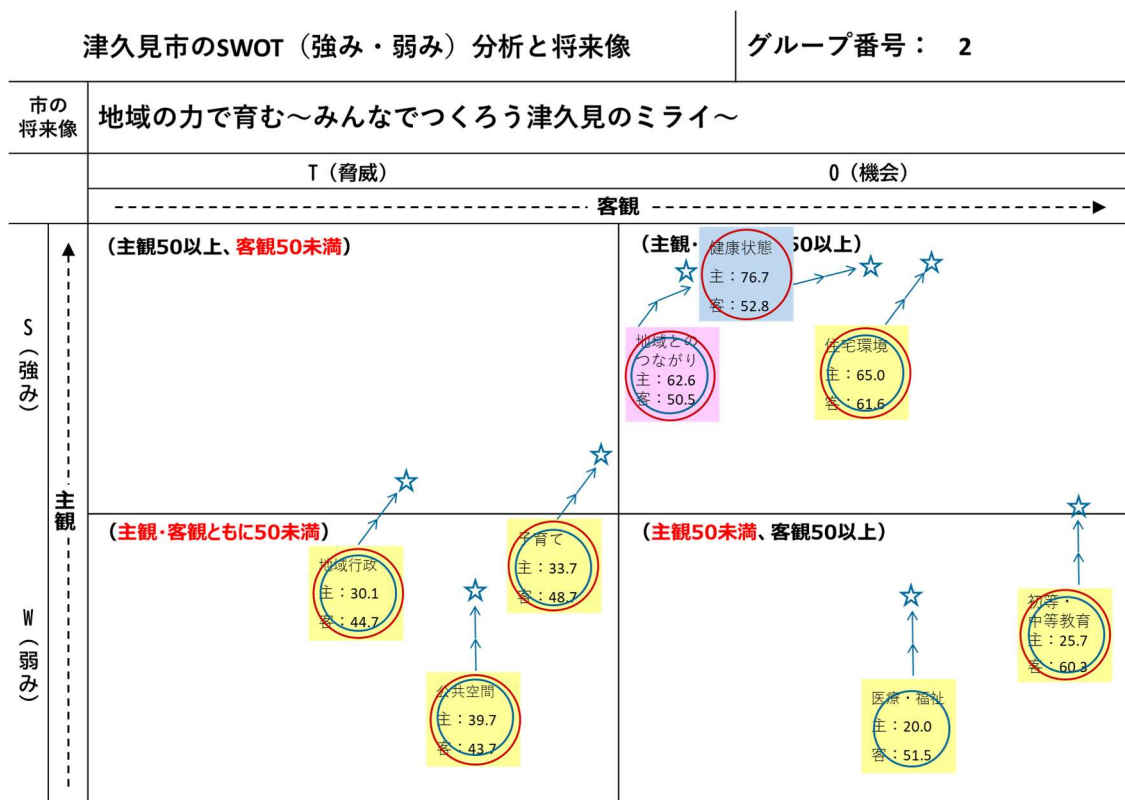
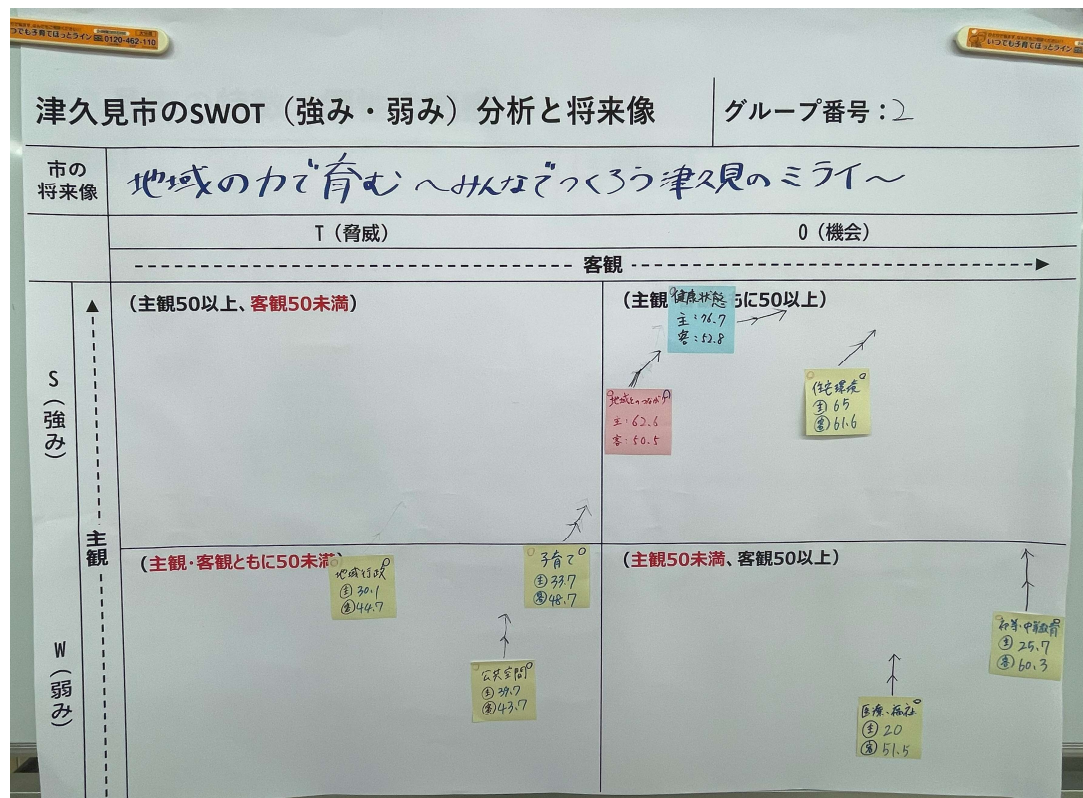
b) 2 班

ワークショップ名：	職員ワークショップ		
日付	令和 7 年 5 月 30 日（金）	場所	津久見市役所 会議室
班名	2	担当自治体名	津久見市
発表内容			
① 主観×客観分析と相関性分析を通じ見つけたウェルビーイングの重要な因子 ・ 「幸福感」は 10～20 代と 60～70 代は平均値以上である一方で、30～40 代の数値が低いため、この年代の市民への対応を打つことができないか ・ 主観・客観ともに 50 以上の中で、「健康状態」が良好な項目の一つ 野球のまちということもあり、運動習慣があると思われる ・ 「地域とのつながり」も良好である、子供の面倒を近くに住む両親や親戚に頼むことができるという状態は、改めて評価されるべきことではないか ・ 「住宅環境」にかんして、津久見市は一軒家の空き家が多いことを強みと捉えたい (一戸建てが多く、家賃が安い) ・ 「子育て」環境の整備にあたって、「住宅環境」のさらなる向上の一環で、空き家のリフォームや転入の促進への補助金を出すことができればよいのではないか。			
② チームで選んだ 8 つの政策領域と選択の理由と方針 以下の 8 つを選択： 「地域とのつながり」「住宅環境」「健康状態」「子育て」「初等・中等教育」「医療・福祉」 「公共空間」「地域行政」 ・ 「みんなでミライをつくる」という前向きな姿勢を打ち出していきたい			
③ 将来の都市像：キャッチフレーズ及びイメージ図 ・ キャッチフレーズ：「地域の力で育む～みんなでつくろう津久見のミライ～」 ・ イメージ図			





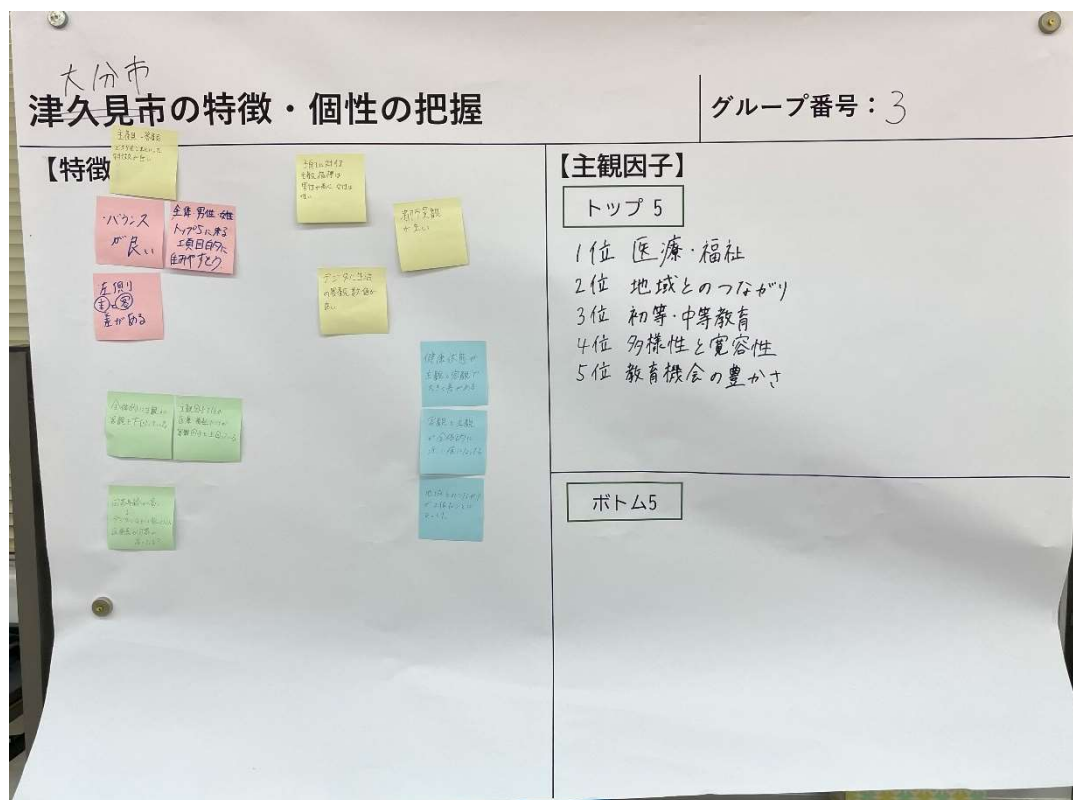
- ・ 幸福感 高
10～20代 60～70代 (平均値以上)
- ・ 客観指標 低 都市景観
- ・ 10代 7.7 6人
20代 7.6 9人
30代 6.3 20人
40代 6.8 31人
50代 6.5 24人
60代 7.3 31人
70代 7.1 15人
80代以上 5.6 5人
- ・ 初等・中等教育
主：25.7、客：60.3
→教育機関の豊かさにも影響？
- ・ 医療・福祉
主：20.0、客：51.5



c) 3 班

ワークショップ名：	職員ワークショップ		
日付	令和 7 年 5 月 30 日（金）	場所	津久見市役所 会議室
班名	3	担当自治体名	大分市
発表内容			
① 主観×客観分析と相関性分析を通じ見つけたウェルビーイングの重要な因子 ・ 核として考えていくことのできる特徴を見出しづらかった中で、主観・客観ともに 50 以上の「地域とのつながり」と、そこに関係して近隣の防犯意識をみる「事故・犯罪」を中心に考えた ・ 犯罪抑制のためには「雇用・所得」の向上が重要である ・ 安心して暮らすことができるように、「住宅環境」や「自然災害」にも注目した ・ 「雇用・所得」に関連して「移動・交通」の必要性も高まる ・ 「公共空間」に公園などが充実すると明るいまちになるのではないか ・ 人に優しくすることは、地球に優しく生活することにも通じるので「環境共生」を選んだ			
② チームで選んだ 8 つの政策領域と選択の理由と方針 以下の 8 つを選択： <u>「地域とのつながり」「住宅環境」「自然災害」「公共空間」「事故・犯罪」「移動・交通」</u> <u>「環境共生」「雇用・所得」</u> ・ 市外在住の身からすると、買い物や遊びが充実していると思っていたが、実際の評価は違った。 ・ 以上の項目をつなぐ主体として、「人」が中心に来るべきである			
③ 将来の都市像：キャッチフレーズ及びイメージ図 ・ キャッチフレーズ：「人がつながる。安心安全温かいまち」 ・ イメージ図			



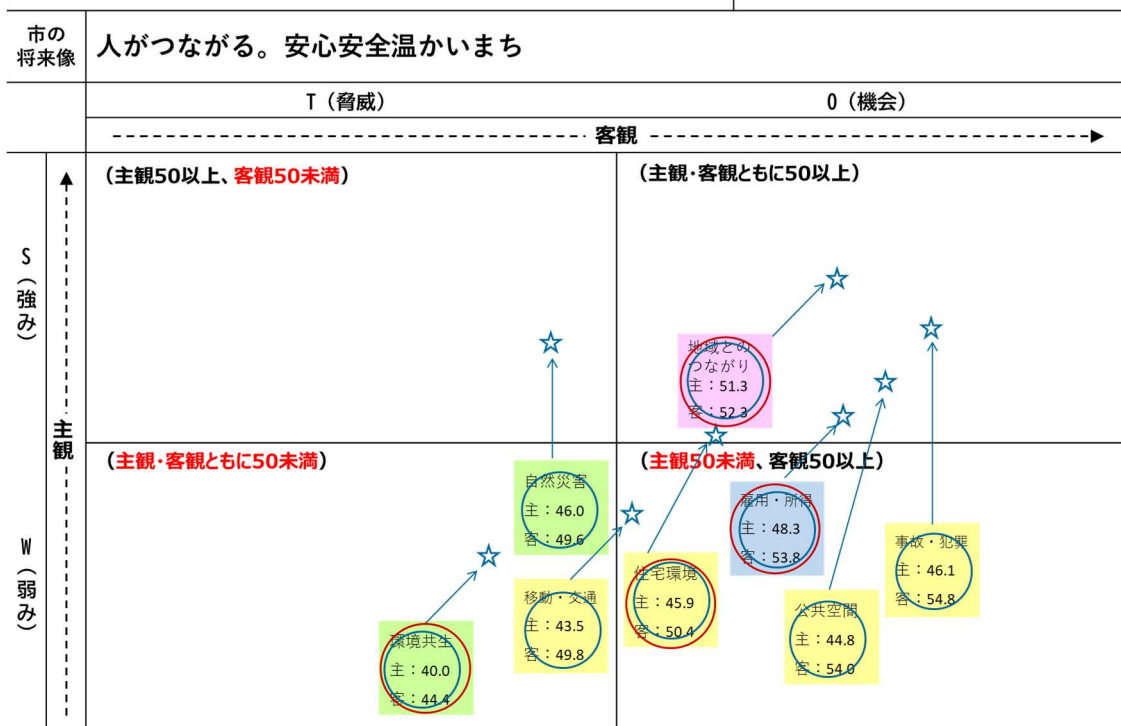


- ・ 主観・客観どちらもこれといった特徴が無い
- ・ バランスが良い
- ・ 全体・男性・女性トップ5に来る項目的に住みやすそう
- ・ 左側主観と客観に差がある
- ・ 子育てに対する主観指標は男性が高く、女性は低い
- ・ 都市景観が良い
- ・ デジタル生活の客観数値が良い
- ・ 全体的に主観が客観を下回っている
- ・ 主観因子1位の医療・福祉だけが客観因子を上回っている
- ・ 回答年齢が高い→デジタルなどは低くなる、医療系の回答が高くなる？
- ・ 健康状態が主観と客観で全体的に近い値になってる
- ・ 地域とのつながりが2位なことにはびっくり。



大分市のSWOT（強み・弱み）分析と将来像

グループ番号： 3



d) 4 班

ワークショップ名：	職員ワークショップ		
日付	令和 7 年 5 月 30 日（金）	場所	津久見市役所 会議室
班名	4	担当自治体名	佐伯市
発表内容			
① 主観×客観分析と相関性分析を通じ見つけたウェルビーイングの重要な因子 ・ 主観の数値が客観と比べていずれも低かった ・ 「住宅環境」の主観と客観の数値が高かったので軸に考えた ・ 満足度と幸福度の相関関係がみられた「公共空間」も中心となる項目 ・ 上記 2 項目に付随して「教育機会の豊かさ」「子育て」「初等・中等教育」「医療・福祉」「遊び・娯楽」「雇用・所得」を選んだ ・ 主観 50 未満、客観 50 以上の 4 項目（「教育機会の豊かさ」「初等・中等教育」「医療・福祉」「遊び・娯楽」）の向上は、周知により向上できると考えている			
② チームで選んだ 8 つの政策領域と選択の理由と方針 以下の 8 つを選択： <u>「教育機会の豊かさ」「住宅環境」「公共空間」「子育て」「初等・中等教育」「医療・福祉」「遊び・娯楽」「雇用・所得」</u> ・ 住宅環境や子育て環境が充実していると思われが、所得の上昇も伴えばより望ましい方向に進むことができる			
③ 将来の都市像：キャッチフレーズ及びイメージ図 ・ キャッチフレーズ：「人の暮らしに優しい環境づくり」 ・ イメージ図			
			

佐伯 津久見市の特徴・個性の把握

グループ番号: 4

【特徴】

教育機会の豊かさ
主観 31.2 (最低)
客観 55.8
→ 知らない市民が多い

自然景観
主観 62.0
客観 41.6

自己効力感
主観 43.9
客観 80.0

住宅環境
主観 56.2
客観 60.0
→ 主観より客観の方が高い

遊び・娯楽
主観 32.6
客観 61.0

都市景観
主 (20・30代) 28.8
客 66.4
主 (全世代) 44.4
→ 若者の不満あり?

【主観因子】

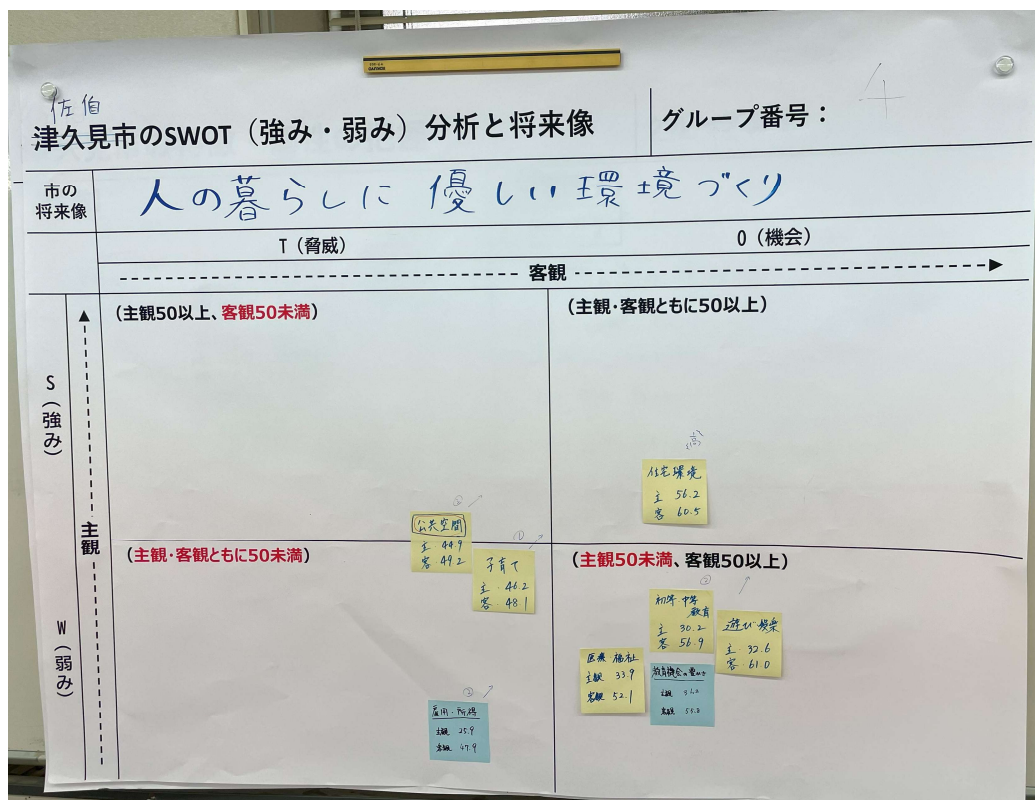
トップ 5

- ・ 自然の恵み (67.6)
- ・ 自然景観 (62.0)
- ・ 地域とつながり (58.7)
- ・ 住宅環境 (56.2)
- ・ 文化・芸術 (48.5)

ボトム 5

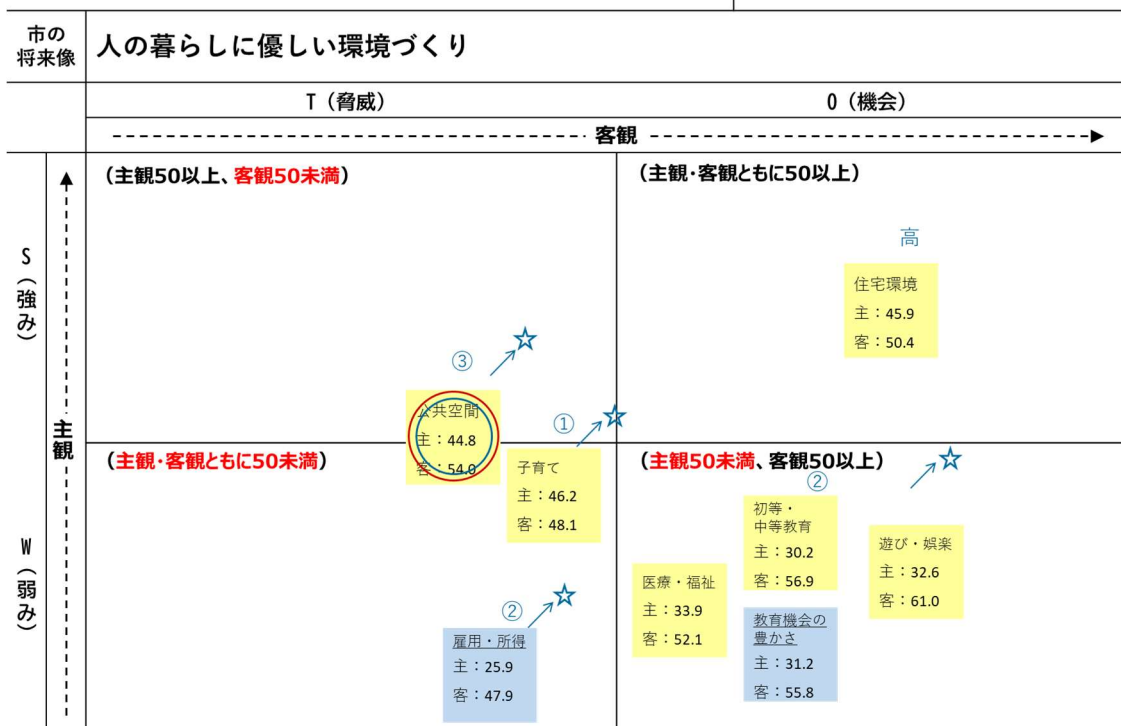
- ・ 雇用・所得 (25.9)
- ・ 産業創造 (26.5)
- ・ 買物・飲食 (30.0)
- ・ 初等・中等教育 (30.2)
- ・ 教育機会の豊かさ (31.2)

- ・ 教育機会の豊かさ
主：31.2（最低）、客：55.8、知らない市民が多い
- ・ 自然景観
主：62.0、客：41.6
- ・ 自己効力感
主：43.9、客：80.0
- ・ 住宅環境
主観・客観ともに 60 前後⇒すごしやすいそう。
- ・ 遊び・娯楽
主：32.6、客：61.0
→ 実際には遊び場があるのに知られていない
or 市民にとってそれは有効な遊び場だと思われていない
- ・ 都市景観
主（20・30代）：28.8
客：66.4
主（全世代）：44.4⇒若者的に不満あり？



佐伯市のSWOT（強み・弱み）分析と将来像

グループ番号： 4



2.2. 市民ワークショップ

(1) 開催概要

開催日時	令和7年6月8日（日） 13:00～17:00
実施場所	津久見市市民会館
実施手法	地域幸福度（Well-Being）指標を活用したワークショップ
参加者	津久見市にお住まいの方 19 名 (5 名×3 グループ～4 名×1 グループ)
同席者	津久見市 石川 市長 石井 副市長 内閣官房新しい地方経済・生活環境創生本部事務局 地方創生支援官 3 名
役割	長大：ファシリテーター1 名・サブファシリテーター3 名程度 津久見市：テーブルファシリテーター
実施目的	ウェルビーイングの定義、まちづくりにおけるウェルビーイングの重要性等について理解を深める 地域幸福度指標の構成・概要を理解するとともに、指標サイトの使い方を習得する 地域幸福度指標（主観・客観）をもとにして、市の現状について理解を深める 地域幸福度指標を活用した政策デザイン手法（重点領域の選定、まちづくりビジョンの言語化など）を体験する
達成すべきゴール	自分が居住する地域に関する関心を高め、スマートシティ・まちづくりへの参画意識の高揚

(2) プログラム

WB ファシリテーター養成講座ワークショップ方法資料（一般社団法人スマートシティ・インスティテュート 2024 年 7 月）を参照し作成した。

No.	内容	所要 時間	時刻	担当
1	開会（進行の説明・WS 実施の背景説明など）	5 分	13:00-13:05	津久見市 経営政策課
2	座学(計 40 分) 総合計画・総合戦略について Well-Being に関する講義 事前のオンライン講義の復習も兼ねて説明	30 分	13:05-13:35	長大
3	ダッシュボード操作説明・演習	10 分	13:35-13:45	長大
4	ワークショップ（計 190 分） ワークショップの目的とプロセスの説明	5 分	13:45-13:50	長大
5	アイスブレイク	10 分	13:50-14:00	長大
6	地域幸福度指標ダッシュボードを活用してまち の特徴を俯瞰する ワークショップの対象都市は、全て津久見市と して全員が津久見市への理解を深める	25 分	14:00-14:25	長大
7	主観×客観分析を通じ、市民のウェルビーイング にとって重要な因子を見つける	20 分	14:25-14:45	長大
8	市民の幸福度・生活満足度と相関性の高い因子 を特定する	10 分	14:45-14:55	長大
—	休憩 他のグループの作業結果も見ていただく	5 分	14:55-15:00	—
9	市民のウェルビーイングを高めるための重点領 域を決める	40 分	15:00-15:40	長大
10	将来のウェルビーイングが向上した都市像を言 語化する	30 分	15:40-16:10	長大
—	休憩 他のグループの作業結果も見ていただく	10 分	16:10-16:20	—
11	チーム発表・講評	35 分	16:20-16:55	長大
12	閉会	5 分	16:55-17:00	津久見市 経営政策課

(3) 実施準備

職員ワークショップと同様。

(4) 結果

ワークショップにおいては、A～D グループいずれも、対象とする都市を津久見市として設定した。

a) グループ A

ワークショップ名：	市民ワークショップ		
日付	令和 7 年 6 月 8 日（日）	場所	津久見市市民会館
班名	A	担当自治体名	津久見市
発表内容			
① 主観×客観分析と相関性分析を通じ見つけたウェルビーイングの重要な因子 ・ 「健康状態」、「住宅環境」、「地域とのつながり」が重要なポイント ・ 人が多くない事には何も始まらない、いかにして津久見に留まってもらうか、外から来てもらうかという話を中心に進めた ・ 外から来る人には、津久見は住む場所が無いと言われるため、「住宅環境」を改善する必要がある ・ 子供を産んで育てていくための「雇用・所得」 ・ 女性に残ってもらわなければいけない			
② チームで選んだ 8 つの政策領域と選択の理由と方針 以下 8 つを選択： <u>「地域とのつながり」「住宅環境」「買物・飲食」「子育て」「自然災害」「医療・福祉」</u> <u>「遊び・娯楽」「公共空間」</u> ・ 「自然災害」を含めて、すべての人が安心安全にらせるまち			
③ 将来の都市像：キャッチフレーズ及びイメージ図 ・ キャッチフレーズ： 「すべての世代が笑顔で安心して暮らせるまち「津久見」ー子育てから介護まで安心して暮らせる社会を目指してー」 ・ イメージ図			



津久見市の特徴・個性の把握

グループ番号: A

【特徴】	【主観因子】
子供医療費が低いのはなぜ？ 雇用・所得の主観と客観の差が疑問 津久見市所得は大分では高い方のはず 健康状態高いのに医療・福祉低いのはなぜ？ 救急（病院）受け入れ箇所近隣に比べて弱い感じ？ 住宅環境満足しているけど子供を育てる環境ではない？ 外部から人を呼び込む為には住宅環境良くないのでは？住む所ある？	トップ 5 健康状態 自己知覚 住宅環境 地域ヒール フナカリ 文化・芸術 ボトム 5 医療・福祉 災害・安全 道路・治安 ランダム生活 教育機会・量・質 雇用・所得 産業創造

- ・ 子供の医療費が主観的に低いのはなぜ？
- ・ 雇用・所得の主観と客観の差が疑問
- ・ 津久見市所得は大分では高い方のはず
- ・ 健康状態高いのに医療・福祉低いのはなぜ？
- ・ 救急（病院）受け入れ箇所近隣に比べて弱い感じ？
- ・ 住宅環境満足しているけど子供を育てる環境ではない？
- ・ 外部から人を呼び込む為には住宅環境良くないのでは？住む所ある？

津久見市のSWOT（強み・弱み）分析と将来像

グループ番号：A

市の将来像

すべての世代が笑顔で安心して暮らせるまち「津久見」

～子育てから介護まで安心して暮らせる社会を目指して～

T（脅威）

O（機会）

客観

S（強み）

主観

W（弱み）

（主観50以上、客観50未満）

（主観・客観ともに50以上）

（主観・客観ともに50未満）

（主観50未満、客観50以上）

津久見市のSWOT（強み・弱み）分析と将来像

グループ番号：A

市の将来像

すべての世代が笑顔で安心して暮らせるまち「津久見」
～子育てから介護まで安心して暮らせる社会を目指して～

T（脅威）

O（機会）

客観

S（強み）

主観

W（弱み）

（主観50以上、客観50未満）

（主観・客観ともに50以上）

（主観・客観ともに50未満）

（主観50未満、客観50以上）

自然災害
主：31.5
客：41.8

公共空間
主：39.7
客：43.7

子育て
主：33.7
客：48.7

買物・飲食
主：20.0
客：44.8

雇用・所得
主：20.0
客：46.8

医療・福祉
主：20.0
客：51.5

地域とのつながり
主：62.6
客：50.5

住環境
主：65.0
客：61.6

b) グループ B

ワークショップ名：	市民ワークショップ		
日付	令和 7 年 6 月 8 日（日）	場所	津久見市市民会館
班名	B	担当自治体名	津久見市

発表内容

① 主観×客観分析と相関性分析を通じ見つけたウェルビーイングの重要な因子

- ・ 「住宅環境」、「地域とのつながり」、「健康状態」など人が生活するために必要な根本が整っている
- ・ 若者が就職や進学出ていくのは仕方が無いので、戻ってきてもらえる状態を考えた
- ・ 若い人が過ごしやすい「遊び・娯楽」や「買物・飲食」の水準を上げる必要がある
- ・ WSに参加するまでは、観光や芸術などについての話を想定していたが、分析してみると現実的な部分から変えていく必要を感じた
- ・ 若者が返ってくると、介護や高齢者の問題にも好影響があるはず
- ・ 帰る：若者が戻ってくる
- ・ 還る：外で得たものを津久見に還元する
- ・ 変える：津久見の中でまちづくりの現場で変えていく

② チームで選んだ 8 つの政策領域と選択の理由と方針

以下 8 つを選択：

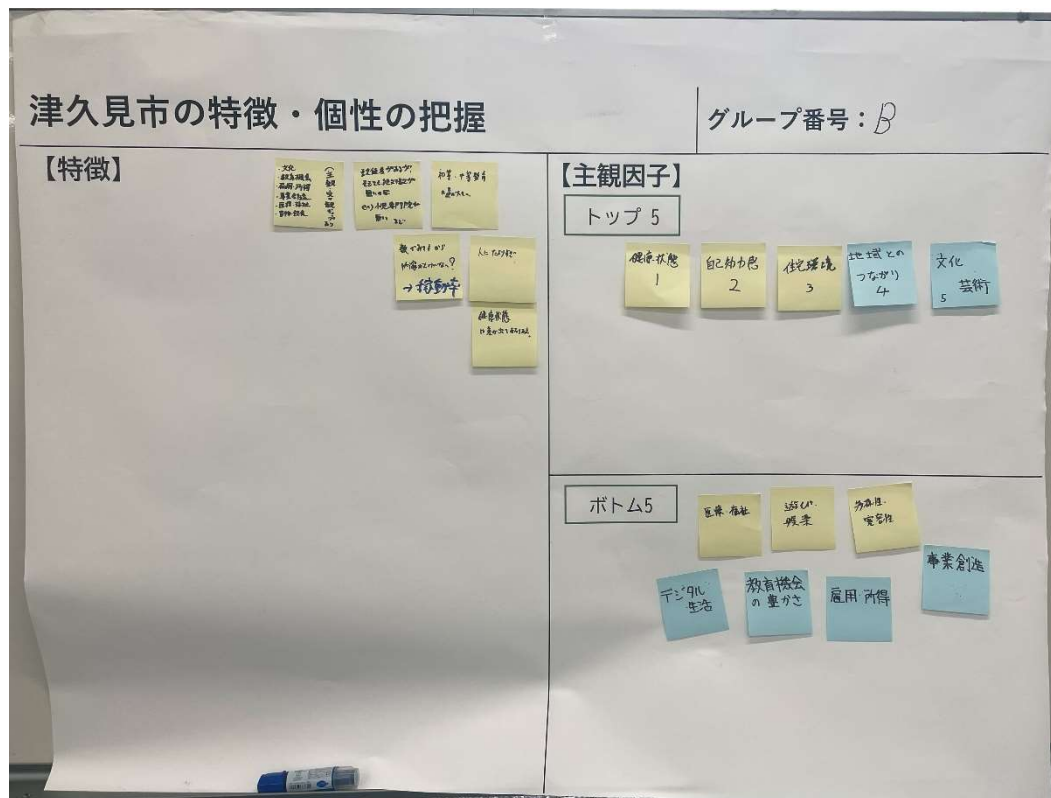
「地域とのつながり」「住宅環境」「買物・飲食」「健康状態」「地域行政」「移動・交通」
「遊び・娯楽」「公共空間」

- ・ 子育ての事を考えるよりも、若者の定着を優先することにした

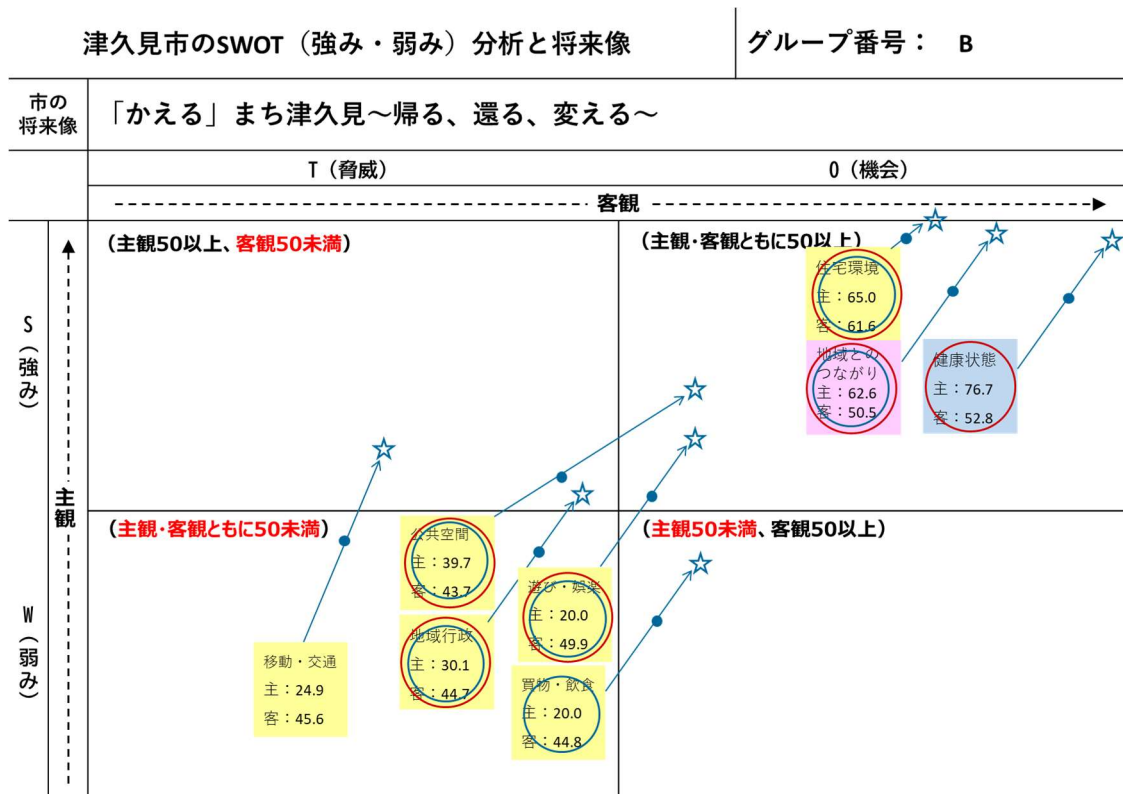
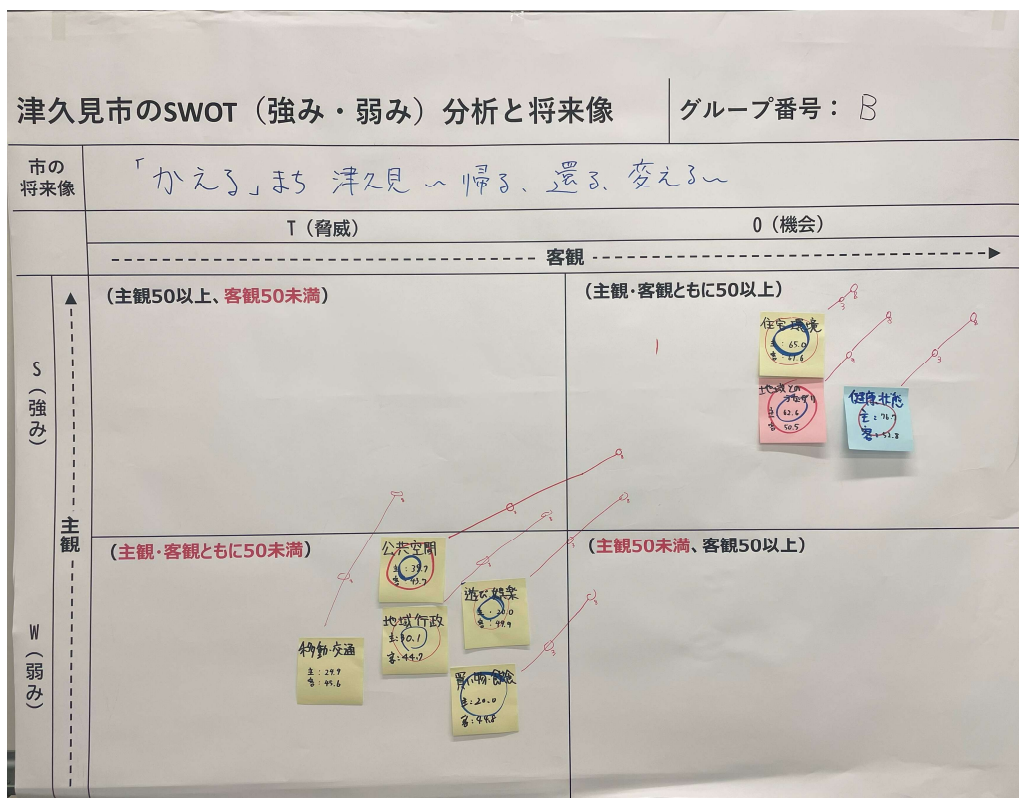
③ 将来の都市像：キャッチフレーズ及びイメージ図

- ・ キャッチフレーズ：「**かえる**」まち津久見～帰る、還る、変える～」
- ・ イメージ図 **KO RETURN TO RESSTORE, TRERSANCEA TRAN.**





- ・ 主観と客観ギャップあり：
文化、教育機会、雇用・所得、事業創造、医療・福祉、買物・飲食
- ・ 数値差があるがそもそも絶対数が無いのに ex)小児専門院が無いなど
- ・ 初等・中等教育の差が大きい
- ・ 数で見るから内容関係ない？→稼働率
- ・ 人にたよりすぎ
- ・ 健康状態は差が出てあたりまえ



c) グループC

ワークショップ名：	市民ワークショップ		
日付	令和7年6月8日（日）	場所	津久見市市民会館
班名	C	担当自治体名	津久見市

発表内容

① 主観×客観分析と相関性分析を通じ見つけたウェルビーイングの重要な因子

- ・ 参加者の女性家族の体験から考える地域との関係のあり方：
- ・ 保戸島に住んでいるため出かける際には、留守番の子どもは好きなおばちゃんの家に行って食事をさせてもらう。おばちゃんの作る好きな食事を言えるような関係。けがをして家が血だらけになった時には元看護師のご近所さんに電話で治療をお願いしたことがあった。
- ・ 40代以上の人はこのような経験をしたことがあったのではないかな？今、このような習慣が無くなってきているから、改めてしくみとして考えられないかな？
- ・ コロナ前後で、地域ぐるみのイベントや関係性が変わってしまった。昔は近所の人が近くの子どもの名前を言えた。このような関係を取り戻したい。

② チームで選んだ8つの政策領域と選択の理由と方針

以下8つを選択：

「地域とのつながり」「自己効力感」「自然の恵み」「文化・芸術」「地域行政」「子育て」「医療・福祉」「公共空間」

- ・ 地域と子どもの観点から考えて選んだ

③ 将来の都市像：キャッチフレーズ及びイメージ図

- ・ キャッチフレーズ：「**地域とのつながりを持ち市民が安心できる町づくり**」
- ・ イメージ図



津久見市の特徴・個性の把握

【特徴】

医療・福祉が足りないことが分かっているから健康状態を良くしようと思っているのではないか。

専門の病院が少ない

60～80代→健康と思っている。
20～40代→医療・福祉が低い

待機児童が0
子供が少ない

買物をする商業施設が少ない
昼は企業の関係で人が多いが昼食等の飲食店が少ない

教育機会の豊かさ→特徴ある学科魅力があるか？

【主観因子】

グループ番号: C

トップ 5

健康状態

自己効力感

健康環境

地域
と
つながり

文化
芸術

ボトム 5

事業創造

雇用・所得

教育機会の豊かさ

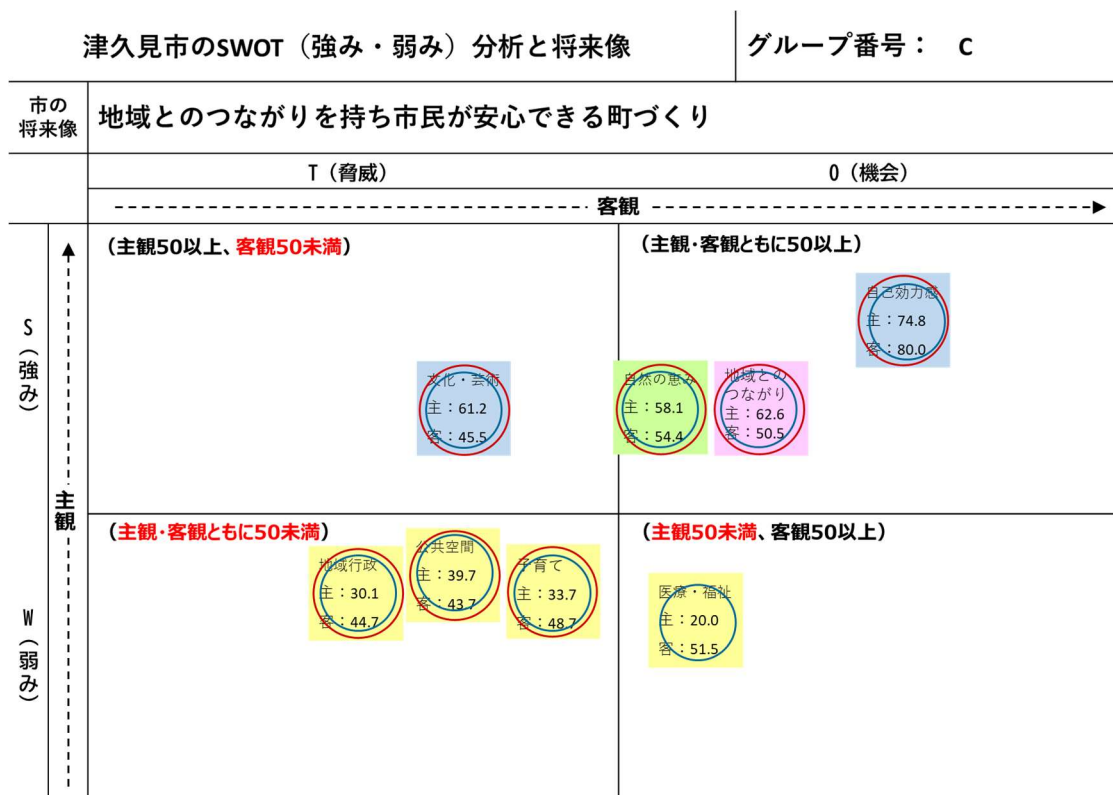
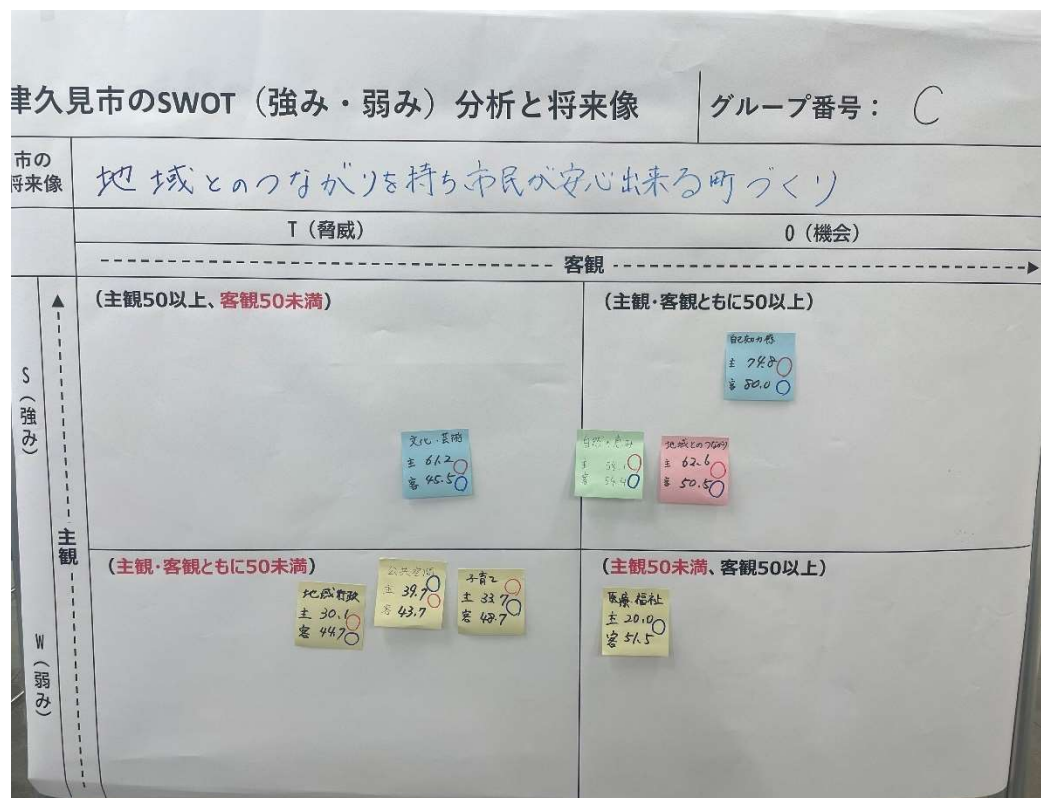
デジタル生活

遊び
娯楽

買物
飲食

医療
福祉

- ・ 医療・福祉が足りないことが分かっているから健康状態を良くしようと思っているのではないか。
- ・ 専門の病院が少ない
- ・ 60～80代→健康と思っている。
20～40代→医療・福祉が低い
- ・ 待機児童が0
子供が少ない
- ・ 買物をする商業施設が少ない
昼は企業の関係で人が多いが昼食等の飲食店が少ない
- ・ 教育機会の豊かさ→特徴ある学科魅力があるか？



d) グループD

ワークショップ名：	市民ワークショップ		
日付	令和7年6月8日（日）	場所	津久見市市民会館
班名	D	担当自治体名	津久見市

発表内容

① 主観×客観分析と相関性分析を通じ見つけたウェルビーイングの重要な因子

- ・ 津久見市の特徴として、大分市へのアクセスが良く、交通量も多くないので住みやすい
- ・ 「自然の恵み」があって魚がおいしい
- ・ 声をかければ地域の人が集まる
- ・ 特に「住宅環境」「自然の恵み」「地域とのつながり」の3つに注目した
- ・ 主観値の低い「初等・中等教育」「教育機会の豊かさ」「医療・福祉」「子育て」などの数値を引き上げることができるよう施策を考えたい
- ・ 子育て世代だけでなく、全世代について「健康状態」の向上を図りたい
- ・ PRにつなげたい

② チームで選んだ8つの政策領域と選択の理由と方針

以下8つを選択：

「地域とのつながり」「住宅環境」「自然の恵み」「健康状態」「子育て」「医療・福祉」

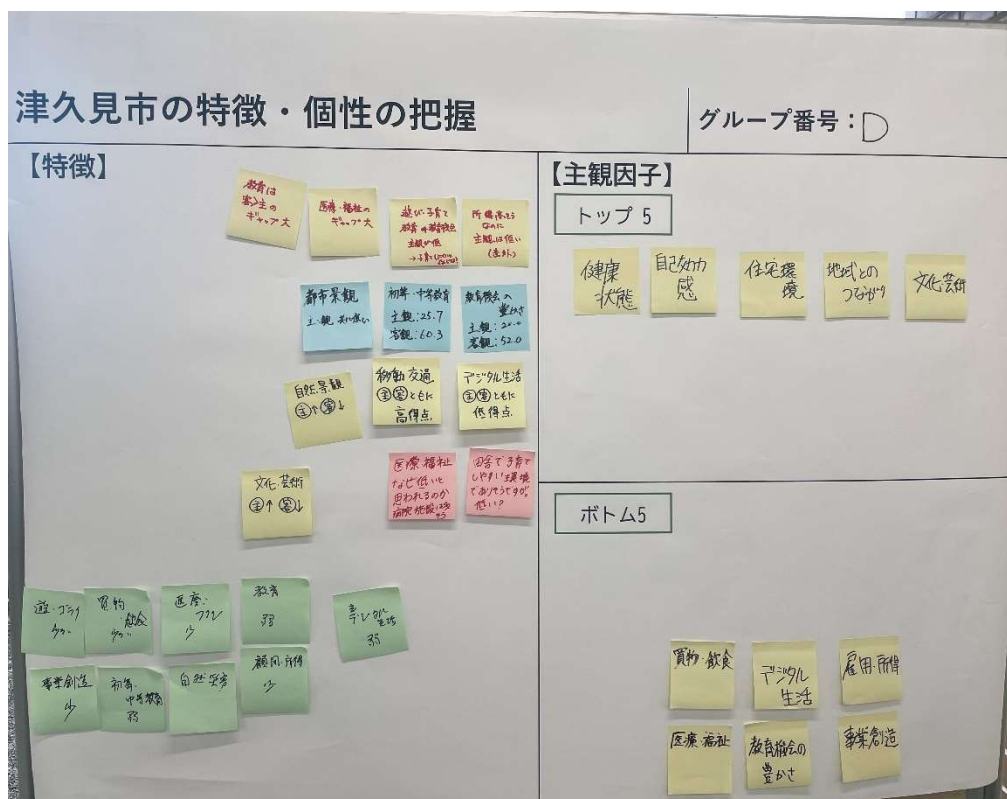
「教育機会の豊かさ」「初等・中等教育」

- ・ 「初等・中等教育」「教育機会の豊かさ」といった、生涯学習を含めた学びの姿勢に特徴がある

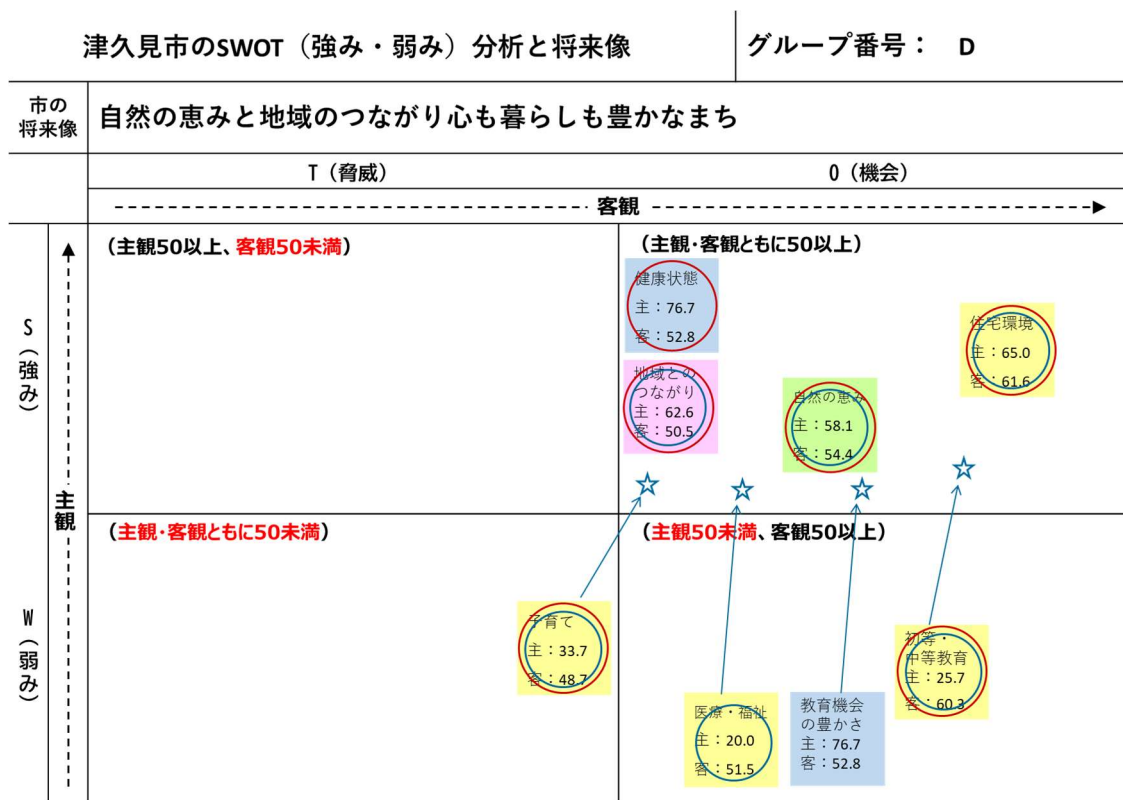
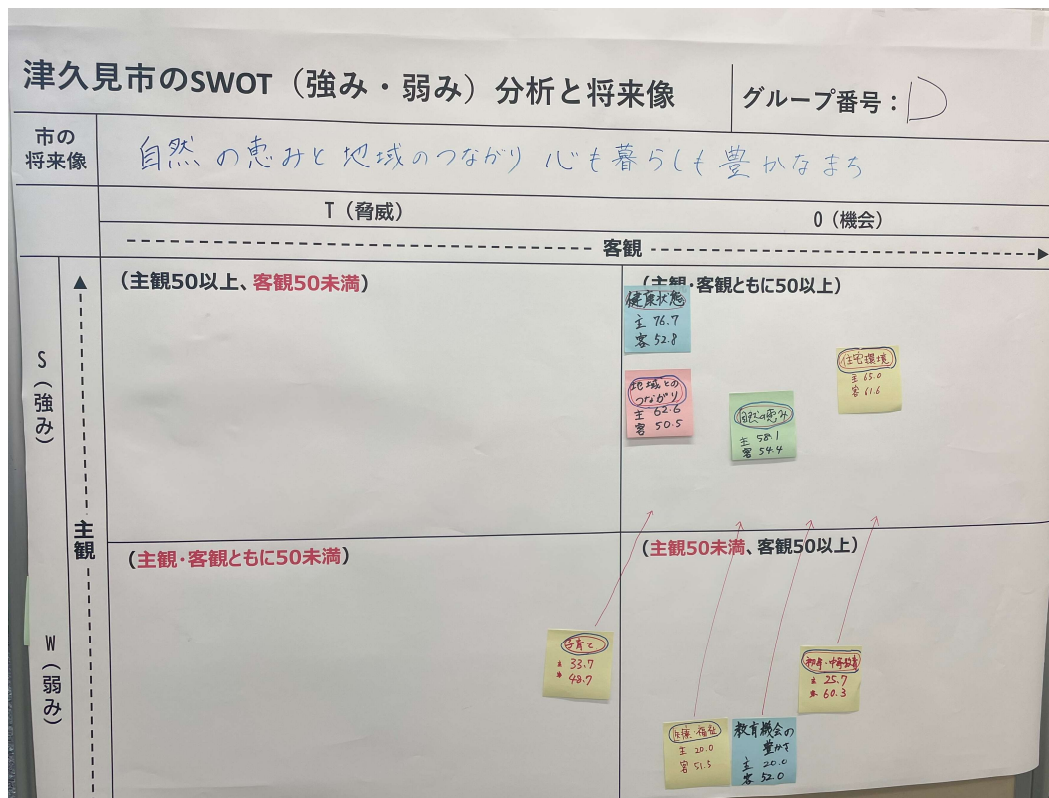
③ 将来の都市像：キャッチフレーズ及びイメージ図

- ・ キャッチフレーズ：「**自然の恵みと地域とのつながり心も暮らしも豊かなまち**」
- ・ イメージ図





- ・ 教育は客>主のギャップ大
- ・ 医療・福祉のギャップ大
- ・ 遊び、子育て、教育機会主観が低→子育てしにくいとされている？
- ・ 所得高そうなのに主観は低い（意外）
- ・ 都市景観主・客共に低い
- ・ 初等・中等教育 主観：25.7 客観：60.3
- ・ 自然景観 主↑ 客↓
- ・ 移動・交通主客ともに高得点
- ・ デジタル生活主客ともに低得点
- ・ 文化・芸術 主↑ 客↓
- ・ 医療・福祉なぜ低いと思われるのか 病院施設は多そう
- ・ 田舎で子育てしやすい環境でありそうですが。低い？
- ・ 遊び・娯楽 少ない
- ・ 医療・福祉 少
- ・ デジタル生活 弱
- ・ 初等・中等教育 弱
- ・ 雇用・所得 少
- ・ 買物・飲食 少ない
- ・ 教育 弱
- ・ 事業・創造 少
- ・ 自然災害



(5) 津久見市石川市長からのフィードバック

ワークショップ終了後、同席していた津久見市石川市長より下記のとおりフィードバックを頂いた。

- ・ 庁内での職員同士の議論でも今回のワークショップのようなプロセスを取り入れたい。
- ・ 注力する政策領域を絞って選ぶことの難しさが感じられたとともに、参加者の市民が進めて行きたい政策が伝わった。
- ・ 話題にあがった津久見の魅力や特徴は的を射て共感できるものであった。
- ・ ワorkshopで出たキーワードを持ち帰って練り直し、総合計画を始めとする各種計画の中に反映していきたい。